

J-SPORT

No.3
●発行
第29回自治労全国野球大会
大阪府本部実行委員会



ベスト4は 古豪と新鋭、波乱の頂上決戦へ

9月12日の2回戦・準々決勝は降雨が心配されたが熱戦は雨を降らせず。特別延長の試合もあり、各チームが力を出し切った。勝ち残った4強は、神戸市従・福山市職労連合・石狩市職労・松戸市職。頂上に立つのは果たして…

●2死満塁1打サヨナラの緊迫した場面で最後の打者をライフライに打ち取った、神戸市従・津田投手兼監督

兵庫(神戸市従)
広島(福山市職労連合)
北海道(石狩市職労)
千葉(松戸市職)

神戸 福山 石狩 松戸

○準々決勝 豊中ローズ球場

石狩市職労 (北海道)	1 0 1 0 0 0 1 0 0	3
藤沢市職労 (神奈川)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0

**エース投打に躍動
石狩堂々の完封勝ち**

初戦を無失点で勝ち上がった石狩市職は、この日も安定感ある試合運びで準決勝に勝ち進んだ。攻撃は、初回小野が四球で塁に出ると内野ゴロで塁を進め、氏家のセンター前ヒットで先制、その後も少ないチャンスを生かして得点を重ね、七回には投手平田のソロホームランで追加点をあげた。先発平田は最終回まで3安打無失点の好投でチームの勝利に貢献した。

石狩の矢野監督は「明日も無失点とノーエラーで進め、少ないチャンスを1点を取り勝負を決めたい」

○準々決勝 舞洲スタジアム

神戸市従 (兵庫)	2 0 0 1 0 0 0 2	5
別府市職労 (大分)	3 0 0 0 0 1 0 0	4

**1点を追う神戸
逆転劇で接戦を制す**

初回の攻防は乱打戦の様相もあったが二回以降は両チーム投手の力投で進んだ。1点を追う神戸市従は八回表に代打・竹中の死球などで走者をため、竹田がレフト前の適時打を放って逆転に成功した。

その裏の別府市職労は一死から四球の走者を置いて岩田が左中間へ二塁打を打ち二・三塁のあとスクイズを仕掛けたが三塁走者が転倒でアウト。2死二・三塁で四球を選び満塁として一打逆転の好機を迎えたがライフライで万事休す。神戸がギリギリの接戦を制し準決勝へ進んだ。

○準々決勝 花園中央球場

高松市職連合 (香川)	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0
松戸市職 (千葉)	0 0 0 0 0 0 0 0 1x	1

○準々決勝 豊中ローズ球場

福山市職労連合 (広島)	0 0 0 3 1 0 1	5
志摩市職 (三重)	0 0 0 0 0 0 0	0

**投打がかみあい
福山連日の完封劇**

**0行進の幕切れは
松戸のサヨナラ勝ち**

投手戦を制したのは福山市職。転機の三回、矢野のサードゴロに続く西山直のバントヒットで一・二塁のチャンス。磯合が右中間への三塁打で2点。志摩市職のミスもありこの回3点。五回、七回にも連打で追加点を入れ試合を決めた。投げては先発永原が六回まで2安打の無失点で徳永につなぎ完封勝利を手にした。

福山の浦瀬監督のコメント「2試合連続の無失点。チーム本来の力がでた。磯合の適時打もあり打線の調子が上がってきた。明日もこの調子で勝ちに行く」

ともに打撃力で勝ち上がった高松市職と松戸市職が対戦。これまでと一転、白熱した投手戦に。両チームの投手は、打たして取るピッチング、守りも堅く九回までゼロ行進となった。均衡が破れたのは九回裏の松戸の攻撃、野中の二塁打をきっかけに満塁に持ち込み、3番白鳥の内野安打でサヨナラ。

松戸の中口監督は「予想どおりの厳しい試合だった。明日の相手も実力チーム。僅差の闘いになると思われる。元氣よく、礼儀正しく闘い、勝利の女神を呼び込みたい」

2回戦(6試合)結果

投げた、打った、走った。

好プレー、好ゲームのカゲに「自治労スピリッツ」あり

○2回戦 豊中ローズ球場(第2試合)

藤沢市職労 (神奈川)

0	0	0	0	1	0	0	0	8	9
0	0	2	1	0	0	1	0	0	4

豊田市職労連 (愛知)

豊田市職労連は三回、大西、原田の連続ヒットで出塁、大森が右中間への二塁打で2点。四回にも追加点を入れ終始試合をリード。投げては豊田の笠松が八回まで1失点と好投を見せた。藤沢市職労は最終回、ワニアウトから平田が四球で出塁すると、それまで好投を見せていた豊田・笠松から4連続ヒットで2点を入れ1点差に詰め寄った。続く祖慶のライト前ヒットがライト大西の頭を越え、一気にホームまで帰り逆転。その後も連続死球や安打でこの一回一挙8点と藤沢は逃げ切った。

藤沢 最終回到底力 一挙8得点で逃げきる



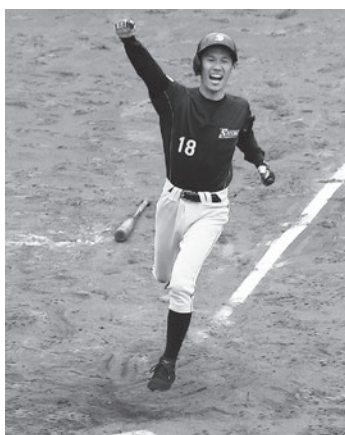
●準々決勝6イニングを3失点に抑える好投を見せた先発の別府市職・脇投手



●走者一掃のランニングホームラン藤沢市職・祖慶選手



●タイムリーヒットを放った選手を笑顔でむかえる福山市職ベンチ



●ガッツポーズでホームを踏む志摩市職・小林選手

○2回戦 舞洲スタジアム(第1試合)

高崎市職労 (群馬)

1	0	0	0	0	0	1	1	0	3
1	0	1	0	0	0	0	0	1	4

別府市職労 (大分) (延長10回サヨナラ)

前年覇者の高崎市職労が初回に先制すると、別府市職労がすぐに追いつき三回には4番・脇の適時打で逆転した。七回までは四者連続奪三振などの高崎・山口と、打たせて取る安部裕、両投手の投げ合いに。拮抗したゲームは八回、高崎の入澤がレフトスタンドに叩き込み同点。時間制限で特別延長に突入して十回裏、別府が熱戦に終止符を打った。別府の岡部監督は「高崎を倒そうとの思いで大会に臨んだ。この勢いで勝ち続け、頂点を狙いたい」と気合いを込めた。

別府 終盤に追いつく 執念の延長サヨナラ

○2回戦 舞洲スタジアム(第2試合)

神戸市従 (兵庫)

1	1	0	0	0	1	0	0	3
0	0	1	0	0	1	0	0	2

黒部市職労 (富山) (時間制限オーバー)

ともに3回目出場のチーム同士。初回、神戸市従先頭の栗野が安打で出塁。4番・澤田がセンターへの適時打できっちり先制し、二回にも佐成の安打から追加点を奪った。追撃の黒部市職労は三回に岩田がライトスタンドにホームランを放ち、六回には吉江の長打などで1点差に。八回裏には四球の走者2人を置いて、広木がレフトへ大飛球を放ったが、神戸の迫田がこれに追いつくファインプレーで万事休す。黒部の追撃を振り切った神戸が準々決勝へ勝ち進んだ。

神戸1点差を守った 最終回のファインプレーで幕

○2回戦 花園中央球場(第1試合)

松本市職労 (長野)

0	0	0	0	2	0	2
4	2	1	4	0	0	11

松戸市職 (千葉) (6回コールド)

第1試合は、9回目出場の常連、松戸市職と、昨日、宮崎市職労を破って勝ち上がった松本市職労の対戦。初回から松戸打線が爆発し、4点を挙げた。これで気持ちも楽になった松戸は、その後も得点を重ね相手を圧倒。対する松本も五回に2点をあげ反撃するも力及ばず涙をのんだ。勝利した松戸の中口監督は、「初回の守りが上々で流れに乗れた。けしして打撃力のチームでないが、大会に向けて力をつけてきたことが実った。チームワークはピカ一。力を合わせて優勝を狙う」と力強く語った。

4イニング連続で自得点 松戸 猛打で圧勝

○2回戦 花園中央球場(第2試合)

大阪交通労組 (大阪)

0	1	0	0	0	1	0	2
1	0	2	3	4	0	x	10

高松市職連合 (香川) (7回コールド)

1回戦で新潟県国保労組を下した高松市職連合は、2回戦シード出場の大阪交通労組を強力な打線で撃破。大阪の先発投手・石原を五回で打ち崩し、本塁打3本などで10対2の七回コールドとし準々決勝に進んだ。大阪は5安打3四球の粘りを見せたが及ばなかった。高松の宇川監督は試合後、「合同練習の機会が少なくチームプレーが課題だったが、今日は選手個人の力を十分出せた。準々決勝の松戸は実力のあるチーム。ミスせず最少失点に抑え食い下がり」と語った。

高松 3本塁打で圧倒 10得点でコールド勝ち

○2回戦 豊中ローズ球場(第1試合)

志摩市職 (三重)

0	0	0	0	0	0	4	4
2	0	0	1	0	0	0	3

大阪市従 (大阪) (時間制限オーバー)

大阪市従は初回、中島のライト前ヒットで出塁、盗塁と内野ゴロで三進、植松は四球を選び5番・柳本のセンターオーバー二塁打で2点を先制。四回にも1点を追加しそのまま逃げ切ると思われた。しかし志摩市職は七回に山本雄のレフト前ヒットから4連打で2点を返し、なおもラシナー・二塁。小林のセンター前ヒットと一塁手のエラーの間に走者生還で逆転した。その裏、市従はヒットと四球で1アウト・二塁にするも加野のピッチャーライナーでダブルプレーとなりゲームセット。

七回に4点一気の攻め 志摩見事な逆転勝ち